



インクルーシブ教育を考える

— 特別支援教育の未来 —

symposium



次期学習指導要領が公表され、特別支援教育の推進に関する取組の重要性が更に強調されるようになっていきます。今後、各学校でのインクルーシブ教育システムのさらなる充実や合理的配慮等に関する具体的な対応の検討が進められるものと思われます。

このような状況の中、新たな日本の特別支援教育の制度やしくみを構築していくためには、国際的な視点での議論や、特別支援学校、小学校等の特別支援学級と通常の学級の両方の立場からの意見交換などを深めていくことが重要であると考えています。

今回、文部科学省他多くの関係者の協力をいただき、東京家政大学での講演会及びシンポジウムを開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

司会：岩井雄一(全国特別支援教育推進連盟副理事長・せたがや檜の木会理事長)

講演：日本の特別支援教育の動向～次期の学習指導要領等の改訂を踏まえて～
丹野哲也(文部科学省初等中等教育局視学官)

シンポジウム：インクルーシブ教育システムの充実のための工夫と課題

基調提案 渡邊健治(東京学芸大学名誉教授・畿央大学教授・日本におけるインクルーシブ教育を考える会代表)

シンポジスト 棟方哲弥(国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員・部長)：諸外国のインクルーシブ教育の状況

半澤嘉博(東京家政大学教授)：東京の特別支援教室構想の展望と課題

藤元貴嗣(神奈川県立多摩高等学校教頭)：高等学校における発達障害のある生徒の受け入れ事例

指定討論 池本 喜代正(宇都宮大学教授) 濱田豊彦(東京学芸大学教授)

開催日時：平成29年10月29日(日)
午後2時～5時

会場：東京家政大学 16号館
161A特別講義室(入場無料：80名限定)



JR埼京線十条駅下車徒歩5分

メールでの事前申し込みが必要です。

hanzawa@tokyo-kasei.ac.jp